

# FUKUOKA キラリ女びと

地域で活躍する女性に、その日々や家庭との両立のヒントを聞くコーナーです。



越村章子さん

タイ国政府観光庁で22年の勤務を経て退職。障がいのある子どもが、放課後等に生活能力や社会性向上のための訓練・支援を受ける「こっしーらんど」を運営する。〔株〕Cossy〕代表取締役

## 足りない時間は工夫と家族の力で補完 「やりきった!という幸せな毎日です」

海外出張もするキャリアウーマンから一転、障がいのある子どものための施設を立ち上げた越村章子さん。自身に子どもは2人。次女には知的障がいと自閉症、慢性疾患があり、生後1カ月で危篤になるも奇跡的に一命を取りとめ、現在11歳。「成長しようとする娘には、親の力だけでなく、専門的視点から支える人や場所、しくみが必要」と感じるようになっていました。わが子と、世の障がい者、その家族のことを思っていた決断でした。

「物事にはその時期に最優先でやるべきことがある」と今は仕事に重きを置く彼女。それが可能なものも家族の家事分担ができているからこそ。春に足にケガをしたのを機に、食事周りは同僚でもある夫が担当するように。「家族皆がやるべ

きことをやって

います。家族も

小さな会社みた

い」と笑います。

中3の長女との

ふれあいがあり

ないと感じたら

「今日すること

ノート」を毎日や

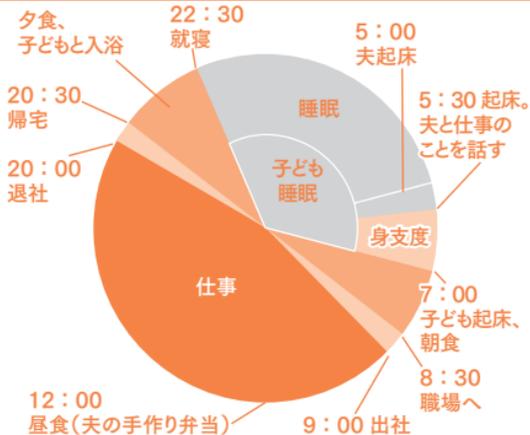
りとりするなど、足りない時間は

知恵でカバーしています。



「家にいる時間の短い私ですが、家族が全ての原動力。家族を思って仕事も頑張れるし、家族の元へ帰って英気を養います。家族と社員が健康で、精いっぱい働ければ後は何もいりません。仕事と家族が私の人生で、私そのもの。他に気を散らす必要のない日々は、やり切った!という幸せな毎日です」

### 越村章子さんのある1日



「子育てのピークは過ぎているとは思いますが、常に子どもが自立できるようにと考えて接しています。長女は家のことはだいたいできるようになりました。私が仕事を通して学んだ合理化や効率化、タイムマネジメントは、家のことにも使えるので子どもにも伝えていきたい」



「忙しくても家族と一緒に楽しむ時間は確保したいので、休日の夜は外食が多いです」